

GSM[®]
Green Speciality Mutuality
NEWS



1

2017
月号-1

Vol. 24

新年会

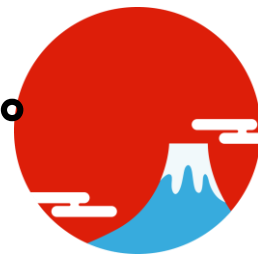
昨年度から毎月の刊行を行ってまいりました、このGSMニュース。本年も引き続き、より多くの皆様に岐阜セラック製造所の新しい情報を発信すべく、努めてまいりたいと思います。

その第一歩として、今年度からは心機一転。デザインを思い切って変更しました！たくさんの方に、もっと当社の魅力を伝えたい。そして読んだ方が「なるほど。」と思えるような、つつい読みたくなる記事を目指して。探り探りの一年となりますが、皆様どうぞお付き合いください。編集担当は山田でお贈り致します。

本年も岐阜セラック製造所、そしてGSMニュースを何卒宜しくお願い申し上げます。

編集担当 山田

あけまして
おめでとう
ございます。



新年の願いをこめて「初詣ツアー」

年が明けて間もない1月7日。社員で初詣に向かいました。参加者は総勢130名。バスを3台貸し切ってでの大規模な初詣となりました。

実はこの初詣、これもまた当社の毎年恒例、伝統行事の一つです。新年を無事に迎えられたことに対する感謝と、今年の安全と繁栄を祈願すべく、できるだけ多くの社員の皆様に参加いただいております。

参拝先は、こちらも毎年恒例、岐阜市の加納天満宮、伊奈波神社、成田山名古屋別院大聖寺の3件です。

①加納天満宮

加納天満宮は岐阜駅の目の前という街中にはあるものの、常日頃から地元の皆様が参拝に訪れる神社です。当社も創業時からお世話になっており、年末には一年の感謝をこめて境内のお掃除にも伺っています。

今回は宮司の方にご祈禱を賜り、無事に新年のご挨拶をすることができました。

②伊奈波神社



伊奈波神社前の参道
頂上の本殿へ向かいます。

次に伺ったのは伊奈波神社です。そのいわれは1900年余りにわたり、昭和14年11月には国幣小社に列せられた、国を代表する神社の一つです。木曾三川で知られる岐阜の地では、かつては洪水等の水害にだれもが悩まされてきましたが、そんな水害から民を守る。長年そんな役割を担ってきた由緒ある神社です。

③成田山



成田山名古屋別院大聖寺
本殿前

成田山に到着したころには、すっかり日ものぼり、真っ青な晴天が境内からも望め、七日の祭日と重なったこともあり、賑わいを見せていました。

こちらでは御護摩に申し込みをしていました。御護摩とは、護摩木という特別な薪が入れた火によって、願い事を清め、成就するよう祈願する祈禱の一種です。またこの火に自分の大切なものをかざすと、お不動様のご利益を得られるといわれており、たくさんの人が手荷物を預けていました。

近年、ご家庭によっては、こうした初詣をしなかったり、信仰に伴う礼儀やマナーを知らなかったり、世代間での価値観の違いがうまれています。しかし当社においては、幅広い世代の方々、普段はできないような体験が社内行事で経験でき、時には先輩方に作法を教わりながら、若い世代もひとつひとつ覚えていきます。これはまた、仕事にもつながる姿です。歴史が積み上げてきた社風や理念は、文字やデータではなく、先輩方から直接話を聞き、学んでいくことで伝承となります。

新年を迎えたからこそ、回帰し、足元を固め、そして先を見据える。まさに温故知新。そんな言葉を思い出させてもらえる、一年に一度の大切な行事でした。



成田山名古屋別院大聖寺の本殿前
正面に見えるのは犬山です。
(2017年1月7日撮影)

参拝（参詣）の正しいマナー

- ①鳥居・山門をくぐる前に服装を整える
- ②軽く会釈をし、鳥居・山門をくぐる
- ③手水屋（ちょうずや、てみずや）で身を清める

- 1 柄杓を右手で持ち、左手を洗う
- 2 柄杓を左手で持ち、右手を洗う
- 3 また右手で持ち、左手で水を受けて口をすすぐ
- 4 右手で持ったまま、左手を洗う
- 5 柄杓を縦にし、手で持っていた柄を洗う

③-2 参拝の前に（お寺の場合）

- 1 鐘楼があり、可能であれば鐘をつく（お釈迦様へのご挨拶になります。）
- 2 香炉がある場合は、お香の煙を浴びて身を清める。

④参拝（神社の場合）

- 1 神前に進み、姿勢を正す
- 2 お賽銭を入れる
- 3 鈴を鳴らす
- 4 二礼二拍手一礼の作法で拝む

④参拝（寺院の場合）

- 1 神前に進み、姿勢を正す
- 2 お賽銭を入れる
- 3 鰐口（わにぐち）を鳴らす
- 4 合掌

鳥居・山門をくぐる

=神様・お釈迦様の住まいにお邪魔する、と考えましょう

参道は左端を歩く→△

神様の通り道、真ん中は避ける、という話もありますが、神様は本殿にみえますので、気にすることはありません。

真ん中を通る時に、人の目の前を通るように軽く会釈するのはとても良いマナーです。

参拝客同士の混雑を防ぐためにも、左端を歩くと良いかもしれません。

意外と知らない、おみくじの豆知識

・おみくじを引くマナー

- 1 まずは本殿へお参りをしましょう。
- 2 しっかりと手を合わせ、神様に伺いたいことを明確にイメージ ※あくまでも「伺いたいこと」。「お願いします」ではなく、謙虚な気持ちで挑みましょう。
- 3 引いたおみくじは必ず結んで帰る必要はありません。願いが叶うまで持ち歩いてよし、持ち帰りたくないものは結んでかえるもよし。

・おみくじは何度引いてもバチは当たらない。

一度しかだめ、というルールはありません。ただし、おみくじは運命ではなく、神様からのアドバイスです。吉凶だけに捕らわれず、すべての内容を真摯に受け止めましょう。

・吉凶の順番はその場所によって変動する。

大吉や凶はまだしも、その他の吉凶の順位は特に決まっていません。そのお寺や神社の掲示物を見る等して、順位を測りましょう。 ※右図は十二段階ですが、六段階のところもあり、段数も様々です。

・決して一年の運勢がわかるものではない。

おみくじはあくまでも、「おみくじを引いたその瞬間の運勢」がわかるものです。その時に足りないものや恵まれているものを、今後の指針という意味で1年間持ち続けることは良いことです。

何にしても、お寺、神社での行動は、すべて気持ちが伴ってのもの。不謹慎な気持ちで臨まず、謙虚で真摯な日本人の心を思い出しましょう

おみくじ 順位表
(十二段階の一例)

↑

大吉
中吉
小吉
吉
半吉
小吉
末小吉
凶
小凶
半凶
末凶
大凶

↓